

細やかな心遣いと

思いやりを持つ、

優しい女性、

初



初肖像 (常高寺蔵)

戦 国の世から江戸時代へ波乱万
丈の人生を送った女性。豊臣
側（姉・茶々）と徳川側（妹・江）
の橋渡し役として知られる浅井三姉
妹の次女、初（常高院）とはどんな
人物だったのでしょうか。

初は、元亀元（1570）年（諸
説あり）、浅井長政とお市の間に三
姉妹の次女として生まれます。天正
元（1573）年、小谷城が織田
信長に攻められ、長政は自刃。市と
三姉妹は、家臣の藤掛永勝によって
織田家の庇護を受けることになりま
すが、その信長も天正10（1582）

年に本能寺の変で討たれます。その
年、お市は柴田勝家と再婚し、三姉
妹とともに越前北庄城に入ります
が、そのわずか1年後、勝家は賤ヶ
岳の戦いで羽柴秀吉に敗れ、お市と
ともに自害。三姉妹は、今度は秀吉
に引き取られたのでした。

天正15（1587）年、秀吉の計
らいで、初は従兄に当たる近江の大
溝城主、京極高次に輿入れしまし
た。高次は、慶長5（1600）年
の関ヶ原の戦いで徳川側につき、大
津城籠城により西軍（石田側）の足
止めをしたことが認められ、若狭国

8万5千石を拝領します。実は、こ
の成功の裏には初の支えがあり、籠
城の際、兵のために侍女に鉄砲の弾
を作らせ、侍女とともに水を汲み、
飯を炊いたと伝わっています。

若狭小浜藩の初代藩主夫人となっ
た初は、徳川秀忠と江の4女、初
姫、2代目小浜藩主、忠高の異母弟、
高政などの養育に尽力します。初は、
子宝には恵まれませんでしたが、そ
の分、身内の子に精一杯の愛情を捧
げていたのです。

慶長14（1609）年、高次の没
後、初は常高院と称し、若狭に寺院
（常高寺）を建立する意思を固めま
す。しかし、夫の菩提を弔う穏やか
な日々は続かず、大坂冬の陣、夏の
陣が勃発。初は、家康の命により豊
臣家と徳川家の仲介をしますが、姉
の淀殿をはじめ、多くの親族を失い
ます。失意の初は、若狭へ戻り、し
ばらく小浜城の西の丸の屋敷で暮ら
しました。

晩年は、江戸に住みながら常高寺
の建立を進め、亡くなる3年前の寛
永7（1630）年、念願の本堂が
完成します。小浜の町と海が見渡せ
る一等地に建立され、初の「たとえ
国替えがあっても寺が続くようにお
心添えをいただきたい。」との遺言
どおり、常高寺は当時から変わらず

この地に残っています。

心の平安を取り戻すため暮らした
地、小浜。裏山には、7人の侍女た
ちに囲まれた初の墓碑があり、今で
も小浜の行く末を静かに見守って
いるのです。

関連史料・ゆかりの地

臨濟宗妙心寺派 常高寺



常高寺



常高院墓塔

初（常高院）の発願により、寛永7（1630）年に小浜出身の槐堂周虎禅師を迎えて
開山。常高院の肖像画や墓所のほか、狩野派の名手、狩野美信筆の書院壁画等が
往時の盛運を偲ばせています。

【住所】小浜市小浜浅間1（JR小浜駅より徒歩20分）